和白干潟通信
愛して、わじろ

No.138

２０２１年7月１３日
発行: 和白干潟を守る会

〒811-0202 福岡市東区和白1-14-37
Tel/Fax.092-606-0012
http://wajirohigata.sakura.ne.jp/

和白干潟の自然観察会（バードウオッチング）

★第23期 和白干潟の自然観察ガイド講習会★「和白海岸の海浜植物を学ぼう！」について

5月30日に予定していました講習会は、新型コロナウイルス感染防止のため10月31日（日）に延期になりました。秋の植物を見て学習します。ご参加よろしくお願いいたします。
早くコロナが収束することを祈っています。

ウラギク

和白干潟のクリーン作戦と自然観察について

クリーン作戦

新型コロナ感染症の変異株が広がり、福岡県では緊急事態宣言が発令されましたので、5月22日の「クリーン作戦と自然観察」は一般への呼びかけをせずに、和白干潟を守る会会員と当日来られた人で実施しました。

緊急事態宣言は6月20日まででしたので、６月26日のクリーン作戦は実施しましたが、今後のコロナ感染状況により中止もあります。ホームページを見てからご参加いただきますよう、お願いいたします。

●コロナ禍の活動報告と振り返り(1)●　（山本 廣子）

鳥類調査活動

　和白干潟を守る会では1991年より博多湾東部と博多湾西部の今津の鳥類調査を行ってきました。環境省（バードリサーチ）の委託を受けて、モニタリングサイト1000シギ・チドリ調査とクロツラヘラサギ・ツクシガモ・ズグロカモメなどの希少種を対象に調査しています。これは年間で冬期3回、春期3回、秋期3回の計9回調査を行っています。また博多湾東部の和白海域では日本野鳥の会福岡支部が行っているガン・カモ調査に協力して、年1回1月に水鳥全種調査を行ってきました。

ミヤコドリ

　2020年2月頃から新型コロナウイルス感染症が流行しだして、2020年4月には全国に緊急事態宣言が出されました。博多湾東部の鳥類調査は春期シギ・チドリ調査の4月より、メールで打ち合わせて調査区域を決め、集合せずに各自別れて調査をして記録や写真を報告してもらい、それらをまとめて記録してきました。今津においては日本野鳥の会福岡支部の今津探鳥会で観察された鳥類を記録しています。コロナ禍の中でも途切れることなく鳥類調査を継続することができました。2021年7月現在で、調査担当者は博多湾東部が7名、今津が5名です。

クロツラヘラサギ

　博多湾東部での「集合せずに別れて調査する体制」は、2021年4月でちょうど1年になります。コロナ感染者はだいぶ減ってきましたし、コロナワクチンの接種も少しづつ進んでいます。しかし、まだ用心してこのまま集合せずに別れて調査をする形態をしばらくは続けていった方がいいのではないかと思っています。また以前のように集合して打ち合わせてから調査に出かけて、調査後には皆で確認できる体制に早く戻れることを願っています。

チュウシャクシギ

　私は1991年から鳥類調査をしていますが、調査を始めた頃には和白海域だけで冬期にカモ類約20,000羽、シギ・チドリ類が約1,500羽、カイツブリ類・カモメ類・サギ類などで約2,500羽もの圧倒的な数の水鳥たちに心が躍りました。しかし、和白干潟沖の人工島開発により和白干潟に飛来するカモ類は約5分の1に、シギ・チドリ類は約10分の1に減少してしまいました。調査をしていてもあまり鳥に会えず、悲しい気持ちになります。2021年冬には久しぶりに500羽程のシギの群れが来ることがありましたが、まだまだ定着していません。狭められた海域の和白干潟の健康が回復する日を願って、調査を続けます。

ツクシガモ

　鳥類調査担当者は高齢化しており、調査員の参加者が足りない状況です。若い方の参加を待っています。

●コロナ禍の活動報告と振り返り(2)●　（松田 元）

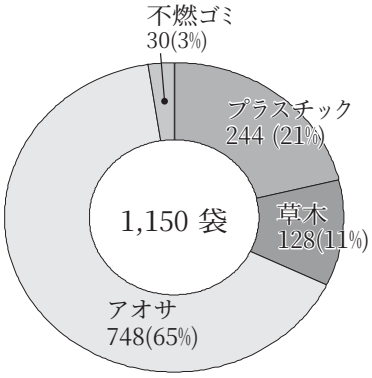
和白干潟のクリーン作戦と自然観察

　昨年福岡県で緊急事態宣言が出されて、コロナ感染者が多い時には、クリーン作戦を一般には呼びかけずに守る会会員中心に行いました。その後守る会では感染防止のためクリーン作戦にはアルコール消毒液を用意し、それまで毎回出していた飲み物とお菓子を止め、各自が飲み物を持参するようにしました。昨年同様に今年も５月１２日～６月２０まで緊急事態宣言が出されて、５月22日のクリーン作戦は広く一般には呼びかけずに守る会会員14名と一般参加者３名の、１７名で行いました。雨や、強風でたくさんの人工ゴミや、草木類、柱、家電製品等、ありとあらゆるものが打ち寄せられていました。マスクも毎回回収しています。清掃が終わった後に綺麗になった和白干潟沿岸を見ると、疲れも忘れます。

　16年前私が守る会会員になって間もなくの頃は、毎日夕方６時くらいに和白干潟の海の広場に行き、山本さんと二人でアオサを一輪車に乗せ、暗くなるまで何回も運びました。打ち上げられカラカラに乾いたアオサも多くあり、くるくると巻けたりしました。軽くても回数を重ねるとくたくたになりました。当時はアオサも今とは比べ物にならないくらいに広範囲にたくさんありました。二人共今よりずっと若かったので出来たのだと思います。その頃山本さんは毎日夕方海岸を走っておられ、走り終わると海岸を清掃されていました。私がクリーン作戦担当になったのもその頃でした。（田辺）

２０２０年度の回収ゴミの内訳

　右のグラフは、2020年度のゴミ回収量を表したものです。
今、社会で問題になっているプラスチックゴミは、全体の21％で244袋もあります。このプラスチックゴミは、不法投棄されて和白干潟に漂着したものですが、私たちもプラスチックを使わない生活習慣を身につけないといけないですね。（山之内）



山・川・海の流域会議の活動

2017年10月の立花山観察登山

　6月12日（土曜日）に予定していた恒例の自然観察会「立花山を歩こう」は、新型コロナ感染症により緊急事態宣言が出されたので、7月17日（土）に延期となりました。
　「山・川・海の流域会議」は発足して、今年7月で10年目を迎えました。最初に行った自然観察会は、和白干潟から唐原川を経由して三日月山頂上まで現状を調査しながら歩きました。
　豊かな自然が残る立花山と和白干潟は福岡市民の誇りです。そしてこれを結ぶのが唐原川です。山・川・海のボランティアグループ（和白干潟を守る会、立花山グリーンガイドの会、楽友会、唐原川を考える会、九産大野生動植物研究会など）それぞれが自然の大切さを知り保護活動を続けていますが、一緒に連携して自然の恵みを共有することになり発足しました。

　初夏の自然観察会、秋の清掃活動、1月の新春講演会を定例行事として、奇数月に年6回の定例会議を開催しながら各グループの情報交換、各行事の計画案などを進めました。このコロナ禍の中では、活動が中止や延期になることもありましたが、できる範囲で活動を続けてきました。
　現在ますます自然の大切さが叫ばれています。私達は今後とも活動の輪を拡げ、山・川・海の自然を未来に残していきます。

★ 和白干潟の自然だより ★ （山本 廣子）

ハマユウ（ハマオモト）（ヒガンバナ科）

ハマユウ

暖地の海岸に生える大型の常緑多年草。葉は厚くて光沢があります。花茎は高さ７０ｃｍ程になり、頭頂に多数の花を咲かせます。大きな白い彼岸花のように見えますが、太くてどっしりとしています。花期は7～9月頃で、 夜に開花しますが、この時むせるような芳香を出します。和白干潟沿岸では海の広場のアシ原の中道や、和白川河口付近、雁ノ巣海岸の砂洲などに数本ずつ生えています。株も太く花も大きくて、夏を感じさせる花です。関東南部以西、四国、九州で見られます。種子は2～３ｃｍで、厚い皮に空気を含み海水に良く浮き漂着して発芽し、生息域を広げています。

ハクセンシオマネキ

ハクセンシオマネキ（スナガニ科） 甲幅２cm。

環境省 絶滅危惧Ⅱ類、 福岡県 絶滅危惧Ⅱ類。

甲は長方形で背面が平滑で少し膨らんでいて、白と灰色の上品な模様がついています。雄は左右のハサミの大きさが違っていて、片方は甲よりも大きく、もう片方はとても小さくて食事に使っています。大きな白いハサミは、大きく振って雌にアピールしたり、他の雄と戦ったりするときに使うようです。和白干潟では、現在の最大の生息地は和白川河口域にあります。夏期に数万匹ものハクセンシオマネキのハサミ振りダンスが見られます。他にも唐原川河口域や奈多のクリークの中にも生息地があります。国内では伊勢湾～九州まで生息しています。

シロチドリ（チドリ科） 全長１７ｃｍ。

環境省 絶滅危惧Ⅱ類、 福岡県 準絶滅危惧。

シロチドリ

日本では普通種だったシロチドリは近年減少が著しくて、環境省のレッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。和白干潟では冬期に多く見られ、１００羽～２００羽程がハマシギやミユビシギの群れと混群を作って群舞する姿が見られていました。人工島開発によりハマシギやミユビシギ・シロチドリが減少しています。夏期には海の中道の外海の砂浜で、コアジサシに混じって少数が繁殖していましたが、現在はどうでしょうか？和白干潟では干潟や砂浜や河口などで、ゴカイなどを食べています。ハマシギよりも一回り小さくて、丸くて可愛い鳥です。個体数が減ってしまって、残念ですね。

★ 和白干潟と私 ★ 2

和白干潟沿岸には松林があり、子どもの頃には木登りをして遊びました。海の家よりも陸側に大きな砂丘があり、風により高い砂山が移動するような砂丘でした。子どもたちは砂丘の山を登ったり下りたりして遊びました。砂丘の端っこにはスミレやチガヤが群生し、可憐な花をつけていました。砂丘の横に西鉄電車の線路があり、私たちは線路を通って和白小学校に通っていました。砂丘の先の和白駅までの間には、塩田の廃墟がありました。和白干潟では、江戸時代から昭和まで入り浜式の塩作りがされており、昭和20年の終戦前まで続いていたと聞いています。和白駅前には塩を焚く窯の煙突が立っていました。沿岸には塩溜の池がありました。

1958年頃の広い砂丘

私が中学生の頃、塩田の廃墟には一面オオマツヨイグサが群生しており、夕暮れにはポンポンと音を立てて黄色い大きな花が開いていきます。私は和白中学校のバレー部で練習し、夕暮れの帰り道にこの塩田を通ります。たくさんのオオマツヨイグサの花に囲まれて、夢のような光景でした。こんな宝物を心に残してくれた和白干潟の風景を私は愛おしく思っています。

（山本廣子）

（中嶌 伸子）

諫早湾の開門問題は和解協議で解決を！

2021年4月28日福岡高等裁判所は、諫早湾の開門をめぐる裁判で「和解協議に関する考え方」という文書を示し、開門調査を拒んでいる国に積極的に関与し和解を促すよう求めています。

その後1か月の間に漁業団体はじめ広く市民団体、自然保護団体、研究団体などから国に和解協議を進めるよう決議、声明などが出されました。

諫早湾干拓事業は1952年に米の増産,浸水問題などの解決のためとして計画され、その後増産が必要なくなっても1982年に着工されました。そして１９９７年4月１４日、閉め切り鋼板が次々に海に落とされ、とうとう全長7㎞の潮受け堤防が完全に閉め切られました。諫早湾は干上がり自然環境は大きく変化し、有明海での漁業被害は大きなものになりました。

2010年には福岡高等裁判所は国に開門を命じる判決を出しましたが国は応じず、反対に2013年長崎地方裁判所で開門を差し止める仮処分決定が出され、2018年には福岡高裁が国の決定を認めました。

今回この問題に長く関わってきた研究者の皆さんからは、中・長期の開門調査の実施を拒んでいる国に対して和解協議に応じ問題解決を進めるよう、そして有明海の自然環境とそれに支えられた漁業が再生へと向かうことを願って、4月27日「自然科学に携わる研究者からの声明」が出されました。

和白干潟を守る会でも、諫早湾の回復を願い毎年4月のJAWAN主催「干潟・湿地を守る日」に参加しています。和解協議に国が真摯に向き合い、問題の解決が図られることを強く希望します。

海岸のゴミ清掃　SNSで発信

回収しても回収しても海岸に押し寄せるゴミ。

各地でいろいろな人々が清掃に取り組んでおり、和白干潟を守る会でも定期的に干潟の清掃をしていますが、近年は会員制交流サイト（SNS）を使っての活動が広まっているようです。自分たちの活動予定やその様子を発信し、身近なところで行われる活動にいろいろな人が参加していくのです。

守る会の新しい会員、木下英生さんは2018年から清掃活動を始め、2019年に「海ごみラボ」を立ち上げSNS を使っての活動を始めました。休みを利用して福岡市東区から福津市方面の海岸で活動しています。気軽に参加してもらえるよういろいろ工夫しながら発信しているそうです。「海ごみラボ」を検索してみて下さい。

清掃に参加すると、私たちの日常生活とごみの関係をより実感できます。たくさんの人が参加して、ごみを出さない工夫や暮らし方 を考えるようになってほしいですね。

★和白干潟を守る会へのご支援ありがとうございます！

☆５月３０日、「お菓子のアトリエ・カノン」様より寄付金を頂きました。

●気が付いたらあなたも電話してください！

▼海辺のゴミやアオサをとってほしい時・自分でゴミを拾った時
092-282-7146（港湾空港局・維持課）

▼沖のアオサをとってほしい時
092-282-7154（港湾空港局・みなと環境政策課）

＊＊　*お　願　い*　＊＊

●干潟でのゴルフの練習やラジコン・ドローン等を飛ばすことはやめましょう！　とても危険です。

●干潟干潟や堤防でゴミを燃やすのはやめましょう！
（ダイオキシン発生防止、ゴミの野焼き禁止）

●犬のフンの始末は飼い主がしましょう！

●弱った野鳥を見つけた時　092-513-5611　（福岡県筑紫保健福祉環境事務所・地域環境課）
092-643-3367　（福岡県環境部・自然環境課・野生生物係）

活　動　日　誌

（山之内 芳晴）

●2021年3月

3/2　（火）「福岡県希少野生動植物の保護に関する条例」について
　　福岡県への要望書提出
3/6　（土）干潟通信１３７号第１回編集会議
3/9　（火）冬季シギ・チドリ調査報告書作成
3/11（木）「和白干潟保全のつどい」会議参加
3/13（土）山・川・海の流域会議総会参加
3/14（日）和白海岸探鳥会 （日本野鳥の会 福岡支部）
3/20（土）第３回環境カウンセラー環境保全活動で環境大臣賞受賞
　　（守る会代表の山本 廣子）
3/21（日）干潟通信１３７号第２回編集会議
3/23（火）和白海域の海底耕うんについての福岡市港湾空港局の説明会
3/27（土）定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
3/29（月）「第８回エクセレントNPO大賞」オンライン表彰式参加

●2021年4月

4/4　（日）2021年度春期シギ・チドリ調査1回目（今津）
4/8　（木）「和白干潟保全のつどい」会議参加
4/10（土）2021年度春期シギ・チドリ調査1回目（博多湾東部）
4/11（日）和白海岸探鳥会（日本野鳥の会 福岡支部）
4/12（月）イオン黄色いレシートキャンペーン2020年度分の受け取り
4/13（火）和白干潟通信１３７号発送会
4/24（土）定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
4/27（火）2021年度春期シギ・チドリ調査2回目（博多湾東部）

●2019年5月

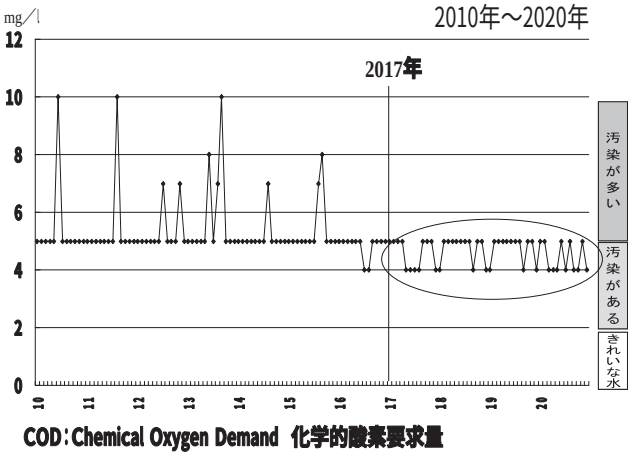
5/2　（日）2021年度春期シギ・チドリ調査2回目（今津）
5/7　（金）和白小学校5年生の先生と和白干潟観察会の打ち合わせ
5/8　（土）山・川・海の流域会議参加
5/9　（日）和白海岸探鳥会（日本野鳥の会　福岡支部）
5/11（火）2021年度春期シギ・チドリ調査3回目（博多湾東部）
5/16（日）2021年度春期シギ・チドリ調査3回目（今津）
5/22（土）和白干潟クリーン作戦と自然観察

干潟のつぶやき「和白干潟の水が少しきれいになっている！」

家庭から出される生活排水は、下水管を通って下水処理場に集められ（COD値が70～80もあります）、バクテリアなどの微生物を利用して処理された後、川や海などに流されます。福岡市には６つの下水処理場（水処理センター）があり、東部海域には、東部、和白、西戸崎の３つの水処理センターがあります。下水処理場で処理された水の汚れ具合は、COD 値で10くらいあり、まだきれいな水ではありません。ちなみに、海水浴が出来る基準のCOD値は２以下です。

和白干潟では、守る会の人たちが毎月水質調査を行っています。その結果をみると、以前はCOD値が５以上の時が多かったのですが、ここ数年は４の月も多く見られるようになりました。和白干潟の水が少しきれいになっているようです。干潟の生きものたちも感謝です。今後生きものや渡り鳥たちが増えればもっといいですね。まだまだきれいな水にするためには、人々の努力が必要です。毎日なにげなく流している水と海の関係を忘れないでほしいですね。

化学的酸素要求量（COD）



活　動　報　告　（中嶌 伸子）

★イオン黄色いレシートキャンペーン2020年度分を贈呈頂きました

和白干潟の観察会

　イオンでは、毎月11日を「イオンデー」として黄色いレシートが発行されます。そのレシートを自分が応援したいボランティア団体の「投函ボックス」に入れると、その団体にレシート金額の1%相当の品物がイオンより寄贈されます。和白干潟を守る会は毎月２～３名がレジ前に立ち、レシートの投函を呼びかけてきましたが、昨年3月より新型コロナ感染予防のために店頭活動は中止になりました。毎月11日の「イオン黄色いレシートキャンペーン」は実施されています。2020年度の贈呈式の開催も中止され、4月に私がイオンサービスカウンターにて、2020年度分のギフトカードの贈呈を受けました。

　守る会ではギフトカードでプリンタインクやコピー用紙などを購入しています。和白干潟を守る会の投函ボックスにレシートを入れていただいた多くの皆さまとイオン香椎浜店に感謝いたします。イオン店の黄色いレシートは全国どこで発行されたものでもかまいません。和白干潟を守る会に送って下さると有り難いです。（山本）

★第１７回くすだひろこきりえ展「和白干潟賛歌」を開催しました

　きりえ展は5/1～5/31に福岡市東区のレストラン「花もも」にて開催、無事終了しました。「花もも」でのきりえ展はもう１７回になりました。新作の大小作品１５点を取り混ぜて、飾りました。下の棚では、絵葉書、絵本などの販売や、和白干潟のパンフレットやリーフレットも配布しました。昨年もでしたが、ちょうどコロナ緊急事態宣言が福岡県に出されており、コロナ禍での開催となりました。店は大きく窓を開け放ち、コロナ対策をとってありましたが、お客は少なかったです。

　そんな中、私のきりえ展を見に来ていただいた皆さん、ありがとうございました。和白干潟を守る会の方々や福岡きりえ同好会の方々、野鳥の会、山のグループ、うたごえサロンの方々などが来てくださいました。芳名録には知らない方の名前も多くありました。きりえ作品に関しては「春陽」「テリハノイバラ」「エノコログサ」「クロツラヘラサギ」などが人気がありました。芳名録には感想なども書いていただき、嬉しかったです。また来年のきりえ展まで1年間、和白干潟のすばらしさをきりえにしていきたいと思っています。（山本）

守る会問い合わせ窓口　**★ホームページ：http://wajirohigata.sakura.ne.jp/**

◎入会／ 観察会（申込等）　山之内 芳晴　Tel. 090-8412-2663
◎クリーン作戦　田辺 スミ子　Tel. 090-1346-0460
◎広報／調査／定例会議　山本　廣子　Tel/Fax. 092-606-0012
◎干潟まつり　中嶌 伸子・松尾 満子　Tel.080-1701-8907

【編　　集】山之内 芳晴・田辺 スミ子・松田 元・中嶌 伸子・山本 廣子
《カット》くすだ ひろこ　★次号は2021年10月に発行予定★

【編集後記】夏の和白干潟では、生き物たちの活動が活発になります。コメツキガニもアシハラガニも元気に命をつなぎます。アシ原でもアシが大きく伸びて、元気な和白干潟を応援しているようです。しかし昨年春からの新型コロナウイルス感染症の流行に、和白干潟を守る会も活動が制限されており、思うように動けない毎日です。早く元の生活が戻りますように！！（山本 廣子）

★お知らせコーナー★　（田辺 スミ子）

★臨時総会を開催します★

●日時：7/24（土）12：00～12：20
●場所：和白干潟を守る会事務所
●議題：事務局体制の変更について

★国際ビーチクリーンアップ参加ゴミデータ調査★

世界一斉の環境保護キャンペーン。海岸のゴミを調べます。クリーン作戦時に実施。ぜひご参加下さい！

●日時：9月25日（土）15：00～17：00
●集合：和白干潟・海の広場
●主催：和白干潟を守る会
■問い合わせ：090-1346-0460（田辺）

和白干潟のエコチャレンジ“アオサのお掃除大作戦”

●日時：9/18(土)、10/24(日)、11/20(土)
★いずれも14:00～16:00
●集合：和白干潟・海の広場
●主催：和白干潟保全のつどい
■問い合わせ：090-8412-2663（山之内）

★定例スケジュール★

●定例会議（7/24，8/28，9/25）

毎月第４土曜日12時～14時　守る会事務所にて開催

以下は参加自由です。仲間が待ってます！

●クリーン作戦と自然観察（7/24、8/28、9/25）

毎月第４土曜日15時～17時　和白干潟・海の広場集合
※長靴があると便利　駐車場なし

●和白海岸探鳥会（8/8、9/12、10/10）

※8/8はコロナ予防と熱中症予防のため中止
毎月第２日曜日　９時～１２時 ＪＲ和白駅前の和白公園集合
主催：日本野鳥の会福岡支部 参加費：一般３００円、中学生以下無料 、野鳥の会会員100円

★会員募集中！
年会費　個人 2,000円
　　団体 5,000円
★カンパの協力お願い
郵便振替　01720-4-23860
和白干潟を守る会

★ボランティアへのお誘い★

和白干潟の清掃、鳥の調査のお手伝い（車の運転、記録）、観察会のお手伝い（写真撮影）などです。

参加をお待ちしています！

和白干潟の鳥たち（その94）

オオヨシキリ（ウグイス科 Great Reed Warbler）大葦切 ［全長18cm］

写真撮影：三宅 僚

オオヨシキリは和白干潟では夏鳥としてアシ原に渡来して、繁殖しています。ヨシ（アシ）に限って巣をかけるので「ヨシキリ」というそうです。植物の葉や茎でコップ型の巣を作り、アシの茎に絡めてぶら下げ、中に卵を生みます。鳥の大きさはスズメよりも少し大きくて、灰褐色の地味な色合いをしていますが、大きく開けた口の中は赤くて目立ちます。

4月中旬頃から訪れて、アシのてっぺんや木の上でも大きな声で「ギョギョシ、ギョギョシ」とさえずります。この声を聞くと夏が来たなあと感じます。オオヨシキリは一夫多妻の鳥で、メスが巣で卵を温めはじめると、次のメスを呼び込むためにオスはさえずりを再開するそうです。メスだけで子育てをするのですね。

以前は多く渡来していましたが、近年和白干潟周辺ではアシ原が減り、オオヨシキリの姿を見ることが減ってきました。また以前のように思いっきり鳴くオオヨシキリの声を聞いてみたいですね。少し複雑な思いですが。（山本 廣子）

◎この干潟通信は（公財）イオン環境財団の助成を受けて作成しました。